

# テーマ「子どもの携帯電話・スマートフォン等の安全な使用のための家庭・地域・学校が一体となった取組」

実施主体：岐阜県関市PTA連合会、岐阜県関市小中学校長会、  
岐阜県関市青少年健全育成協議会  
協力団体：岐阜県関市教育委員会

## 《取組の概要》

子どもたちが安全に携帯電話やスマートフォンが使用できるよう、関市PTA連合会、関市小中学校長会、関市青少年健全育成協議会が連携し、市内小中学校の全保護者に子どもたちの携帯電話やスマートフォン等の使用規制を依頼し、家庭・地域・学校が一体となった取組を行っている。

## 1 本事業に取り組んだ理由(課題を含めて)

関市において、平成26年2月に「情報機器の保有率等の調査」を行ったところ、自分の携帯電話やスマートフォン、タブレットを持っている子どもの割合が小学校6年生で42.8%、中学校3年生で62.8%と高い数値であった。さらに、中学生の57.1%の生徒がソーシャルネットワーキングサービス(SNS)や無料通信アプリの利用経験があることがわかった。

全国的に見られるように、インターネットに関わるトラブルの増加、ゲームやメールのやり過ぎによる不規則な生活やそれに伴う体調不良等、子どもたちの安全・安心を脅かす状況が迫っていた。そこで、対策として関市全体で子どもたちの安全・安心のための取組を行うことにした。

## 2 実施に至るまでの経緯

### 【本事業への歩みだし】平成25年度内

学校だけではなく、家庭・地域も一体となった取組を行うことができないか、関市教育委員会から関市PTA連合会長、関市小中学校長会長、関市青少年健全育成協議会長に呼びかけた。

### 【先進的な実践の取材】平成26年4月中旬

先進的な取組を行っていた愛知県刈谷市の取組の経緯やその成果等について取材を行った。

### 【関市小中学校長会との意見交換会】平成26年4月中旬

関市小中学校長会役員と関市教育委員会関係者で刈谷市の取組を確認し、小中学校における状況について情報交流を行った。そして、刈谷市と同様の取組を行うことについて検討した。

### 【関係団体との意見交換会①】平成26年4月下旬

関市PTA連合会長、関市小中学校長会長、関市青少年健全育成協議会長、関市教育長、関市教育委員会事務局長、学校教育課長、学校教育課担当者で、関市全体での取組を行うことを確認し、その方針や実施に向けた見通しについて話し合った。

### 【関係団体ごとでの検討】平成26年5月～6月

各会での総会や役員会において取組の具体的な内容や日程について確認、周知した。

### 【関係団体との意見交換会②】平成26年5月下旬

具体的な取組内容について検討し、実施に向けた日程について確認した。

### 【関係団体との意見交換会③】平成26年7月上旬

取組内容や依頼文書を最終確認した。

### 【取組開始】平成26年7月15日

全小中学校一斉に、保護者宛に依頼文書を配布し、取組をスタートした。

### 3 具体的な取組内容

市内小中学校の全保護者に、子どもたちの携帯電話やスマートフォン等の使用について、次のような依頼をした。

- 必要のない携帯電話やスマートフォン等を持たせない。
- 携帯電話やスマートフォン等を契約する際には、親子で約束をしっかりと結び、必ずフィルタリングサービスを受ける。
- 夜9時以降、子どもから携帯電話やスマートフォン等を預かる。

### 4 事業の成果

7月15日に取り組み始めて4か月後の11月に行ったアンケートでは、次のような成果が表れた。

○小学校の高学年児童及び中学生の約20%がメールの回数が減った。

○33%の小中学生のゲームをする時間が短くなった。

○38%の小中学生の家での勉強時間が長くなった。

○29%の小中学生の睡眠時間が長くなった。

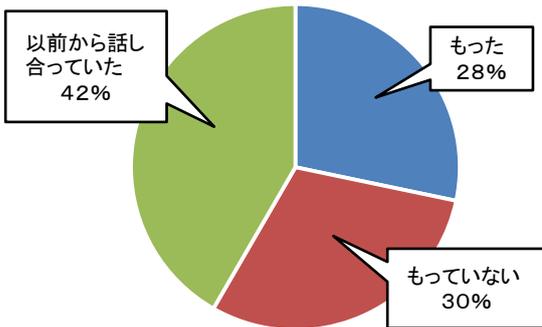
さらに、ある中学校では、このアンケート結果と自分たちの学校の結果から、生徒会の役員が問題意識を持ち、携帯電話やスマートフォンの安全な使い方のルールを全校へ提案し、全校宣言として採択する取組が行われた。

また、保護者へのアンケートでは、この取組を「よいと思う」「どちらかといえばよいと思う」と回答した保護者が90%以上を占め、保護者の関心も非常に高いことが分かった。

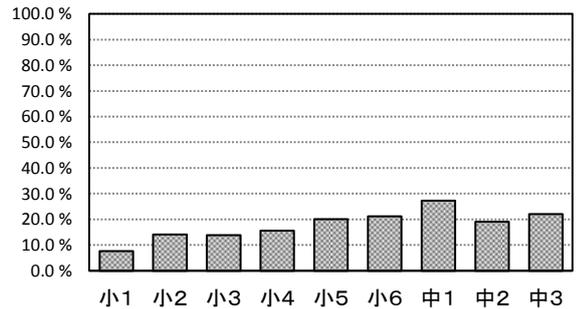
この取組を通して、約30%の家庭で今回の取組を機に話し合

いがもたれた。以前から話し合っている家庭も含めると、約70%の家庭で携帯電話やスマートフォン等の使い方について家庭で話し合ったことになり、問題意識が一層高まった。

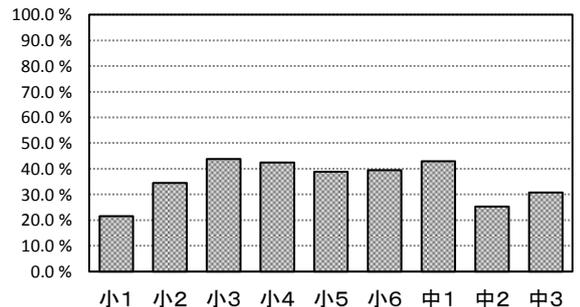
お子さんと安全な使い方やルールなどについて話し合いの場をもちましたか？



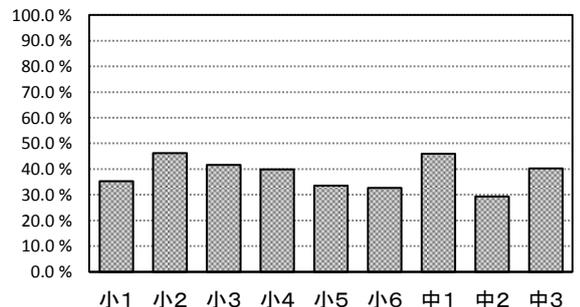
メールをする回数が減った児童生徒の割合



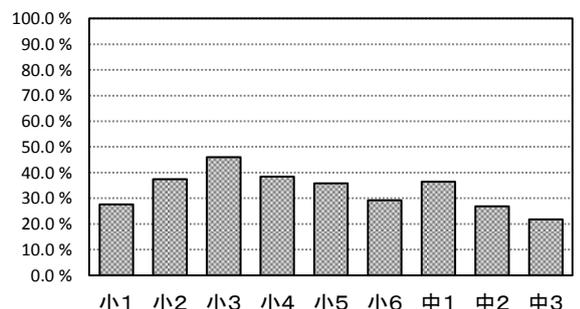
ゲームをする時間が減った児童生徒の割合



家での学習時間が増えた児童生徒の割合



睡眠時間が増えた児童生徒の割合



### 5 今後の展開

- ・各小中学校において、携帯電話やスマートフォン等の安全な使い方についての全校宣言を行うなど、子ども自身が主体的に問題解決に取り組んでいく活動へ広げていく。
- ・定期的に子どもたちや保護者にアンケートを実施し、関心や問題意識の一層の向上に取り組んでいく。